Shinrin RANGER あきる野

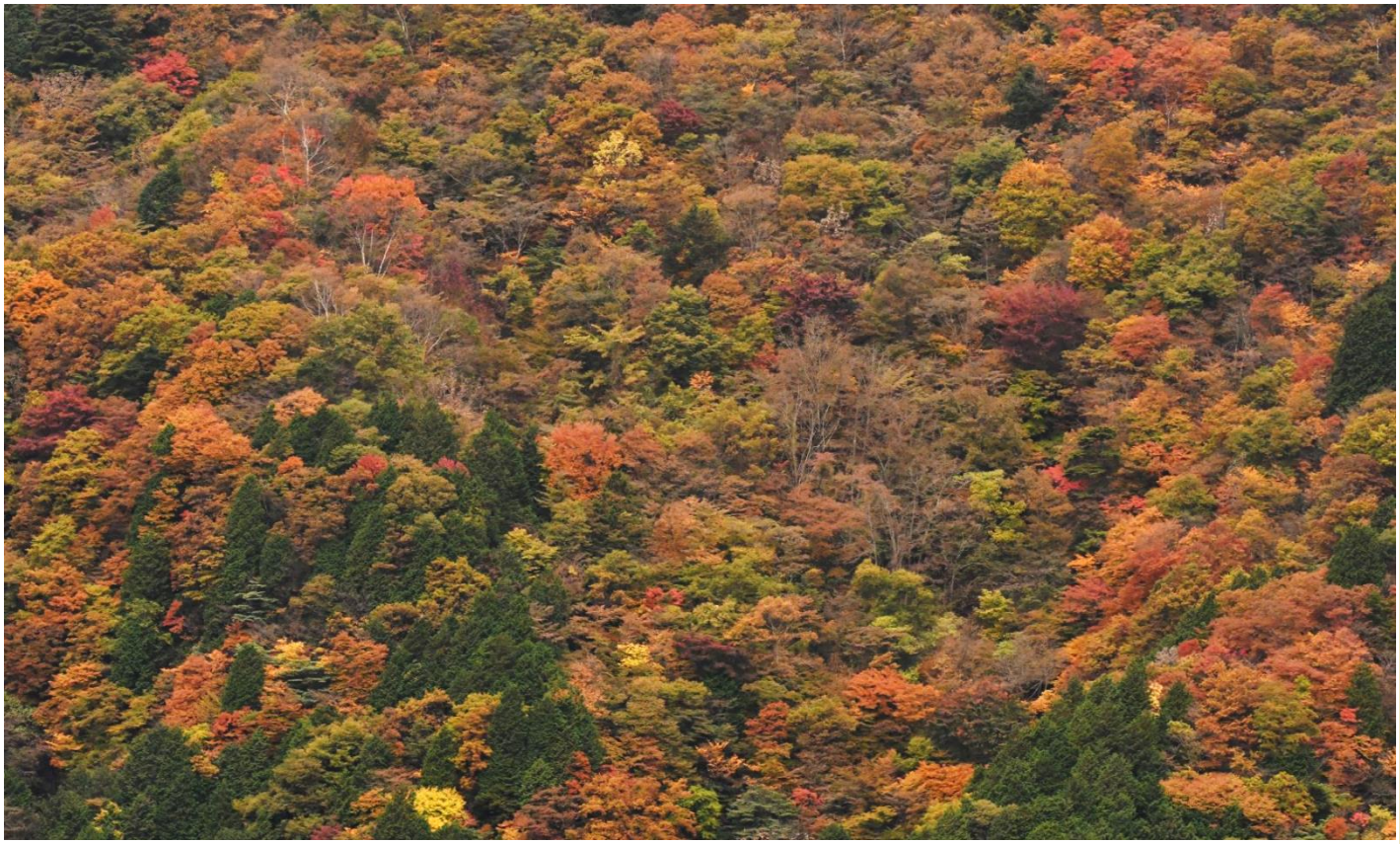
森林レンジャーあきる野新聞

Vol.137　2021年11月号
発行：森林レンジャーあきる野 （パブロ）

秋の恵み

秋は、多くの人にとって、最も恋しい季節ではないでしょうか。切なさや喜び、様々な気持ちが混じり合うこの頃の自然界は、ダイナミックで色鮮やかな時季です。

戦後の拡大造林の影響を受けなかった山や渓谷の一部では、大自然の多様性が成り立つ美しい森が残っています。それらを巡る「紅葉狩り」の季節の真最中です。



大岳山東部の斜面に広がる「秋のじゅうたん」（上）。ミズナラやカエデの仲間など、神秘的な森が生き残る山です。大岳沢や大岳山周辺のハイキングコースを歩けば、そういう「魔法の世界」に沈むことができます。他にも、馬頭刈尾根のナラ林（左下）や、ススキやオギなどが輝く河原の風景（右下）、あきる野の紅葉はピークを迎えます。

秋の「ドロップス」

あきる野にガン？？！！！

カモの飛来が増え始める10月上旬、秋が深まっていく中、今年は30℃前後の暑い日もありました。稲刈り作業が終わった秋川沿いの田んぼにガンカモ類らしき1羽がポツンといました。「間違いなく、マガンだ！」と驚きながらしばらく見つめました。

マガンは越冬のため、ロシアなどから主に東北や日本海側の限られた地域まで南下する冬鳥で、基本的には関東地方に飛来しません。宮城県の有名な沼地で観察した時、数多くのマガンを見ましたが、関東エリアでは初めてで、予期せぬ出会いでした。

渡り中の迷鳥と思われ、あきる野で一休みしてくれたかわいらしいマガンでした。

下山したヒョウモン

以前から、「確認したい昆虫リスト」の中にあったオオウラギンスジヒョウモンです。通常、この蝶は秩父多摩甲斐国立公園内の高原で生息していますが、秋になると標高の低い里山や河川敷などの草原に下りてくる個体がいます。秋によく見られるミドリヒョウモンなどによく似ていますが、細かいスジや特徴的な白紋から識別ができます。

このオオウラギンスジヒョウモンは10月上旬に、秋川沿いの野原に生えていたヤマゼリの花を訪れていましたが、周りに他のヒョウモンチョウもいたため、競争が生まれ、落ち着かずに頻繁に飛び回っていました。よく見なければ見逃すところでした。

秋の不思議発見？

木にバッタが止まっているかと思い、よく見てみたら・・・「うむ、生きてないんだねー」と、フリーズしているクルマバッタモドキの様子が気になりました（写真）。もっと近付いて見てみると・・・ 「あああ、トゲに刺さっていますねー」と、こんな場面を見て、同じように思ったことがある方はいませんか。

実は、これは「モズ」という鳥類の「はやにえ」と言って、秋の代表的な貯食行為の一つです。モズはご存知の方が多いかと思いますが、この独特な行為は、秋が深まるにつれて獲物をあちらこちらのトゲや小枝に刺します。そして、それらを冬の間に消費するそうです。バッタの他にもカナヘビやカエル、カヤネズミなどが対象となり、畑や河原で確認することができます。

みなさんも、冬に備え、準備ができていますか。